令和7年度

福井小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 学習規律の確立による、児童の学習意欲・教師の指導力向上
- 「主体的な学び」を育む授業の創造

校長

鶴本正道

学力向上推進員

教頭 笹川亨
 低学年推進員 三間 由美 中学年推進員 末廣 大典
 高学年推進員 片山 トシエ

【各校の取組状況の把握について】

授業研究会を中心に教員が相互に授業参観し合い、アドバイスし合って、指導方法の改善点や効果を検証し取組状況の把握

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた課題に真面目に取り組んで学習できる児童が多い。 ○全体的に見ると、基礎的な学力はつきつつあるが、学年間での差が見られる。 ●学力の定着、またその活用が十分でない児童がいる。 ●語彙が少なく、記述が苦手な児童がいる。 ●長文を読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・豊富な語彙で話す・書くことができる。 ・学習の過程で身に付けた知識を、既習の知識と関連付けたり他の学習や生活に生かしたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト・視写・認知機能トレーニング・ドリルパーク学習など、学習の基礎的なトレーニングを継続し、学習意欲を高め集中力を持続できるようにする。 ・毎日の日記指導やスピーチの機会を生かし、豊富な語彙での話す・書く力を向上させる。 ・音読カードを活用して継続的な音読指導に取り組んだり、週末読書を推進して読む力を向上させたりする。 			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題に対して、自分なりの考えを表現することができる。 ○タブレットの活用に慣れ、自分の考えをまとめたり、友だちと意見を交換したりしながら学習を進めることができつつある。 ●問題の要点をつかんだり、必要な情報を選択したりすることが苦手な児童がいる。 ●考えをペアやグループで共有し、練り上げてさらに高めていくことに関して課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えを見直したり膨らませたりする。 ・自ら課題を見出し、その解決に向けた方向性を考え、他者と協力し、必要な過程を計画・実行しながら解決まで導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え方の手立てや話し方のパターンなどを示し、課題に応じた考えること・書くこと・話すことに一人一人が慣れていけるようにする。 ・学習内容に応じた学習形態や学習思考ツールの工夫をする。 ・授業中だけでなく、朝や帰りの会、全校朝会など、様々な学習活動の中で、自分の考えを書いたり話したりする機会を意図的に設ける。 			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習を好み積極的に活動する。 ○朝の学習(チャレンジタイム)や読書の習慣が定着しており、与えられた課題には前向きに取り組む。 ●自ら課題を見つけたり、難しい問題に粘り強く取り組んだりすることができない児童や集中して学習するために支援の必要な児童がいる。 ●家庭学習に丁寧に取り組めなかったり、家庭読書の時間が短かかったりする児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に粘り強く取り組むとともに、自らの活動を振り返って学習の成果や課題を今後の生活や学習につなげることができる。 ・課題解決の体験を積み、分かる楽しさを体験し、学習に意欲や自信をもつことができる。 ・自主学習に励み、自分のできていないところに気づき、復習し、学力の向上に自主的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に学習に取り組めるような導入や課題づくりの工夫・改善を行う。 ・児童の思考の流れに沿った授業展開や教材・教具の工夫をする。 ・スモールステップでの成功体験を大切にすること。 ・「家庭学習の手引き」「自主学習の進め方」を活用したり手本となる自主ノートを掲示したりして、自主学習への意欲が持続できるようにする。 			